

緑化植物に関するポータルサイトの立ち上げと コラム「緑化植物ど・こ・ま・で・き・わ・め・る」について

中村華子^{*1)}・橋 隆一²⁾

- 1) 生態・環境緑化研究部会幹事／緑化工ラボ
- 2) 生態・環境緑化研究部会幹事／東京農業大学地域環境科学部

はじめに

平成 27 年 3 月 26 日に、「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(以下, リストという)が公表された¹⁾。このリストは, 平成 22 年の生物多様性条約第 10 回締約国会議で採択された愛知目標の達成に資するとともに, 外来(移入)種についての国民の関心と理解を高め, 様々な主体に適切な行動を呼びかけることを目的として作成されたものである。リストには, 計 429 種類(動物 229 種類, 植物 200 種類)の生物が掲載された。今後, 同時に策定・公表された「外来種被害防止行動計画」(以下, 行動計画という)と合わせて外来種対策が推進されていくこととなる。リストおよび行動計画, 関連図表等は, 環境省のホームページからダウンロードできるので, 参照されたい。

(<http://www.env.go.jp/nature/intro/1outline/list.html>)

日本緑化工学会では, 生態・環境緑化研究部会が 2013 年 9 月 28 日に第 44 回鳥取大会において研究集会「生態系および遺伝子の多様性に配慮した緑化の拡大に向けて」を実施し, 環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室担当官より, リストおよび行動計画について説明を受け, 意見交換を行った。以降, 随時, 環境省担当者との意見や情報を交換してきた。さらに今回, リストと行動計画が公開されるにあたって, さらに情報公開が求められていた。2015 年 3 月 14 日に開催された日本緑化工学会理事会において, 緑化植物等のうち, リスト掲載種や, 掲載が検討された種について研究成果や事例紹介を社会に還元するためのポータルサイトを作成することが決まった。このサイトを作成するにあたって理事会では, 2004 年から断続的に連載している, 緑化植物に関して会員が寄稿するコラム「緑化植物ど・こ・ま・で・き・わ・め・る」をまず利用すべきだとした。

そこで著者らは, これまで掲載されたコラムの一覧表を作成するとともに, 今回公表されたリストとの内容のつきあわせを行った。また, 公表されたリストから, 「利用しながらも管理に取り組む」とされた【適切な管理が必要な産業上重

要な外来種(産業管理外来種)】についての情報提供をさせて頂く。今後リストや行動計画に基づいて, 行政の施策や様々な主体による取り組みが検討されるにあたって, 緑化植物や緑化事業に関連する取り組みについては当学会からの情報提供が有効に活用されるべきだと考えている。そのためにも, リスト掲載種および検討対象となった種をはじめとする緑化植物の情報やその利用方法, 管理方法などに関する会員諸氏からの寄稿・情報提供を期待するものである。

1. リストの概要と構成

リスト公開と同時に示された選考手順と概要について説明する。

1.1 リストに期待する役割・効果

(広く国民全般, 様々な主体に対して)各主体の外来種対策へのより積極的な参加・協力の促進

(関係事業団体や外来種を利用しようとする主体に対して)リスト掲載種の利用抑制・適切な管理

(防除等のより具体的な行動をしようとする主体に対して)防除等の外来種対策の普及・促進, 対策の検討における基礎資料としての活用

(国, 地方公共団体, 研究機関等に対して)地方毎の外来種対策推進のための外来種リストの整備の促進, 調査研究・モニタリングの実施の促進, 外来種対策の促進

(国(外来生物法の運用)に対して)特定外来生物への追加指定

1.2 選定方法

1) 選定手順

具体的なリスト掲載種の選定にあたっては, 既存のリスト(IUCN ワースト 100, 日本の外来種ワースト 100, ISSG, 地方版外来種リスト等), 要注意外来生物リスト, 専門家から提供された情報をもとに, 検討を行う種を抽出した。抽出された種について, 生物学的条件及び自然環境・社会経済的条件について評価を行い, 掲載種を選定した。掲載種については, カテゴリ区分, 定着段階等の情報の整理を行った。

2) 侵略性の評価基準

リストの根拠情報では、侵略性の評価について、各評価項目につき、以下の考え方に沿って評価を記載している。

「◎」…情報があり、その評価基準について「強い」「高い」「大きい」又は「可能性が高い」といえる。

「○」…情報があり、その評価基準について「ある」又は「可能性がある」といえる。

「×」…情報があり、その評価基準について「基準を満たさない」「ない」といえる。

「―」…現時点では、該当する情報を得ていない。

3) 掲載種の選定

上記 1)、2) の評価を踏まえ、植物についてはさらに以下の観点から、掲載種が選定された。次のⅠ～Ⅴに1つ以上該当する種類について、リスト掲載対象とした。

Ⅰ. 生態系被害のうち交雑が確認されている、またはその可能性が高い（「生態系被害」の「交雑」が「◎」となることを重視。生態系被害の中でも、交雑は不可逆的な影響であるため特に重視）

Ⅱ. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い（「重要地域」が「◎」となることを重視）

Ⅲ. 人体に重篤な被害を引き起こす、またはその可能性が高い（「人体」が「◎」となることを重視）

Ⅳ. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い（「生態系被害」の「競合」または「改変」が「◎」で、かつ「分布拡大・拡散」「利用」「付着・混入」の複数項目が「◎」となることを重視。生態系被害の中でも、競合または改変の影響が、拡大、継続することを重視）

Ⅴ. 生態系被害のほか、人体や経済・産業へ幅広く被害を与えており、かつ分布拡大・拡散の可能性もある（「生態系被害」の「競合」または「経済・産業」が「◎」、 「重要地域」または「人体」が「○」、 「分布拡大・拡散」「利用」「付着・混入」が「◎」となることを重視）

1.3 カテゴリ区分

掲載種は、各主体による対策の検討・実施に当たって参考となるようカテゴリを区分した。これらのカテゴリにより特に重点を置くべき対策の方向性が示されている。カテゴリは、(1)未定着のもの、(2)定着が確認されているもの、(3)産業又は公益的に重要で代替性なく利用されているものにより、大きく3つに分けられる。さらに、(1)については「侵入予防外来種」及び「その他の定着予防外来種」の2つに、また、(2)については「緊急対策外来種」、「重点対策外来種」及び「その他の総合対策外来種」の3つに細分化されている(図-1)。

掲載種の中で、産業又は公益的役割において重要であり、現状では生態系等への影響がより小さく、同等程度の社会的効果を得られるというような代替性がないため、利用において逸出等の防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種については、「適切な管理が必要な産業上重

要な外来種（産業管理外来種）」のカテゴリを設け、利用にあたっては種ごとに示される利用上の留意事項に沿って適切に管理を行うことを呼びかけるとされている。植物では果樹や市場単価の工事に利用される緑化植物、蜜源植物などがこのカテゴリに分類された。

1.4 リストの記載及び各項目の解説

1) 国外由来の外来種と国内由来の外来種

日本国内に自然分布域を有していない生物種である「国外由来の外来種」と国内に自然分布域を有しているが、その自然分布域を越えて国内の他地域に導入された生物種である「国内由来の外来種」に分けられている。

2) 定着段階と対応の考え方

「A 未定着」：監視と予防等による、未定着状態の維持

「B 定着初期／限定分布」：国内からの根絶、分布拡大の阻止

「C 分布拡大期～まん延期」：地域的な根絶(取り除き)、生物多様性保全上重要な地域への拡大の阻止、被害影響の低減等

「感染症・寄生生物」：個別の状況に応じた対応の検討

「D 小笠原・南西諸島」：小笠原諸島及び南西諸島においては、現在生息・生育する島での影響低減と封じ込め、種によっては根絶

「X 国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種」：国内の他の地域から持ち込まれた場合、在来種と同じ種類が海外から持ち込まれた場合があるが、どちらか不明な場合も含む

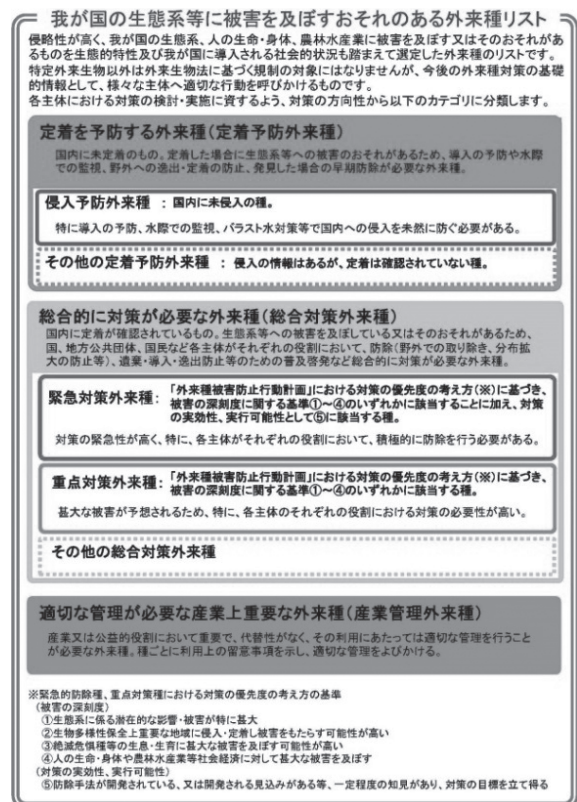


図-1 リスト掲載種のカテゴリ分類

表-1 産業管理外来種の一覧(1) 侵略性の評価など

リスト No.	科名	適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)		定着段階 /特に問題となる地域や環境	特定/旧 要注意	定着可能性 生物 輸入	生態系被害			分布拡大・拡散			重要 地球	人体	経済 産業	利用	付着 -混入	
		和名(別名、流通名)	学名				競争	交雑	改変	散布	繁殖	気候						永続
176	マタタビ	キウイフルーツ(シナサルナン)	<i>Actinidia chinensis</i> var. <i>deliciosa</i>	分布拡大~まん延期 /森林		-	-	◎			◎	◎	◎	◎			◎	
177	バラ	ビワ(ヒワ)	<i>Eriobotrya japonica</i>	分布拡大~まん延期 /石灰岩質の岩産地		-	-	◎	x		◎	○	◎	◎	○			◎
178	マメ	ハリエンジュ(ニセアカシア)	<i>Robinia pseudoacacia</i>	分布拡大~まん延期 /河原、海岸林、リンコ園の周辺	要注意	-	-	◎	x	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	
179	マメ	外来クサフジ類(ビロードクサフジ(ヘアリーベッチ、シラゲクサフジ)、ナヨクサフジ(スームズベッチ))	<i>Vicia villosa</i> ssp. <i>villosa</i> , <i>V. villosa</i> ssp. <i>Varia</i>	分布拡大~まん延期 /河川敷や山地草原		-	-	◎		◎	◎	◎	◎	○	○		(○)	◎
180	イネ	コヌカグサ(レッドトップ)、クロコヌカグサ	<i>Agrostis gigantea</i> 、 <i>Agrostis nigra</i>	分布拡大~まん延期 /河川敷、絶滅 危険種のヌカホ風の生育地周辺		-	-	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	○	○	◎	
181	イネ	カモガヤ(オーチャードグラス)	<i>Dactylis glomerata</i>	分布拡大~まん延期 /山地草原	要注意	-	-	◎	x		◎	◎	◎	○	◎	○	◎	◎
182	イネ	オニウシノケグサ(トールフェスク、ケンタッキー31 フェスク) <i>Festuca arundinacea</i>		分布拡大~まん延期 /里草地、河川 堤防など半自然草地、亜高山帯草地	要注意	-	-	◎			◎	◎	◎	○	◎	○	(○)	◎
183	イネ	ドクムギ属(ライグラス類)	<i>Lolium</i> spp.	分布拡大~まん延期 /河原や自然 草原、ポウムギは海岸砂地	要注意	-	-	◎	x	○	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎
184	イネ	オオアワガエリ(チモシー)	<i>Phleum pratense</i>	分布拡大~まん延期 /亜高山帯や山地の草原	要注意	-	-	◎	○		◎	◎	◎	○	◎	○	◎	
185	イネ	モウソウチクなどの竹類	<i>Phyllostachys edulis</i> 、 <i>Phyllostachys</i> spp.	分布拡大~まん延期 /二次林、自然林		-	-	◎	x	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎
186	イネ	ナギナタガヤ(ネズミノシツボ)	<i>Vulpia myuros</i>	分布拡大~まん延期 /海岸砂地、草原		-	-	◎	x	○	◎	◎	◎	○	○		◎	
187	イネ	ギネアキビ(ギニアグラス、ギネアキビ、イヌキビ)	<i>Panicum maximum</i>	小笠原・南西諸島		-	-	◎	x		◎	◎	◎	○	◎		(◎)	◎
188	イネ	アメリカスズメノヒエ(バヒアグラス、オニスズメノヒエ)	<i>Paspalum notatum</i>	小笠原・南西諸島		-	-	◎			◎	◎	◎	○	◎		(◎)	◎
189	イネ	ナビアグラス(ネビアグラス、エレファントグラス、 ペルーグラス) <i>Pennisetum purpureum</i>		小笠原・南西諸島		-	-	◎	○		◎	◎	◎	○	◎		(◎)	◎

2. 適切な管理が必要な産業上重要な外来種

「適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)」として掲載された植物種およびリストと同時に公開された付加情報の内容を表-1 および表-2 に示した。全国的に対応が必要だとされる11種、「小笠原・南西諸島」で対応が必要だとされる3種が掲載された。このうちコヌカグサ(レッドトップ)・クロコヌカグサ、カモガヤ(オーチャードグラス)、オニウシノケグサ(トールフェスク、ケンタッキー31フェスク)、ドクムギ属(ライグラス類・ペレニアルライグラス、イタリアンライグラス)、オオアワガエリ(チモシー)、アメリカスズメノヒエ(バヒアグラス、オニスズメノヒエ)は市場単価(「土木施工単価」)の主体種子として掲載されているなど各種仕様書に掲載されており、緑化等公共事業に多く利用されている。

3. 評価を行ったものの掲載されなかった種

当初、リスト掲載候補種としてあがったものの、今回公開するリストへの掲載は見送られた植物種を一覧表にした(表-3, 4)。2014年3月26日に開催された平成25年度第2回愛知目標達成のための侵略的外来種リスト作成会議資料より作成した。表-3は「国外外来種」、表-4は「国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種」である。当学会で遺伝子攪乱のおそれが指摘されている国内由来の外来種については、導入後に対応することが難しいこと等もあり、今回は掲載が見送られた。数年ごとに掲載種の見直しが行われる予定であり、学術的な情報が多く提供されることにより、積極的な対応を議論できるようになっていることが望まれる。

4. これまでのコラム掲載種のリスト掲載について

2004年発行の日本緑化工学会誌第29巻4号に第一回・イモカタバミが投稿されてから現在に至るまでにコラム「緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る」で紹介された植物について、今回リストに掲載された種、さらに検討対象になった種について、概要をとりまとめて表-5に示した。これまでのコラムは必ずしも外来種問題を意識して書かれたものではないが、リストの公開により、今後は外来種問題への対応を視点に含めたコラムが多くなることも予想される。

5. ホームページでの外来緑化植物ポータルサイトの構築

はじめに述べたとおり、日本緑化工学会では、ホームページ上に緑化植物に関する情報を提供するためのポータルサイトの構築をすることを決めた。2015年に、これまでのコラム掲載種と、リスト掲載種を写真入りで紹介するサイトを作成する。会員諸氏からのさらなる情報や意見の提供と、ご協力をお願いする次第である。

引用文献

- 1) 環境省。(更新:2015年3月26日)「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)」の公表について(お知らせ)。環境省ホームページ。
<https://www.env.go.jp/press/100775.html>
(参照:2015年3月27日)。

※ここに掲載した資料は、学会誌刊行後に図表を大きくして日本緑化工学会ホームページに掲載します。
(<http://www.jsrt.jp/>)

表-3 評価を行ったものの掲載種(案)としなかった種【国外外来種】

(2014. 3. 26 開催の平成 25 年度第 2 回愛知目標達成のための侵略的外来種リスト作成会議資料より)

科名	和名(別名、流通名)	学名	定着状況
キツネノマゴ	ヒメタデハグロ(ハイグロフィラ・ポリスペルマ)	<i>Hygrophila polysperma</i>	A未定着
オモダカ	セイヨウオモダカ	<i>Sagittaria sagittifolia</i>	A未定着
ハナイ	ハナイ(ハナクサイ)	<i>Eutomus umbellatus</i>	A未定着
トチカガミ	ヨーロッパアンフログビット	<i>Hydrocharis morsus-ranae</i>	A未定着
トチカガミ	ストラティオテス・アロイデス	<i>Stratiotes aloides</i>	A未定着
ミズアオイ	ハイホテアアオイ	<i>Eichhornia azurea</i>	A未定着
ヤナギ	ギンドロ(ウラジロハコヤナギ、ハクヨウ)	<i>Populus alba</i>	B定着初期/分布限定
ミツガシワ	ハナガガブタ(バナナプランツ)	<i>Nymphoides aquatica</i>	B定着初期/分布限定
アマ	キバナノマツバニンジン	<i>Linum medium</i>	C分布拡大期
トウダイグサ	シナアブラギリ(オオアブラギリ)	<i>Vernicia fordii</i>	C分布拡大期
シソ	ヨウシュハッカ	<i>Mentha arvensis</i>	C分布拡大期
シソ	マルバハッカ(ニガハッカ)	<i>Mentha suaveolens</i>	C分布拡大期
シソ	アメリカハッカ	<i>Mentha gentilis</i>	C分布拡大期
ゴマノハグサ	コテングクワガタ	<i>Veronica serpyllifolia ssp. serpyllifolia</i>	C分布拡大期
イネ	ハガワリトボシガラ	<i>Festuca heterophylla</i>	C分布拡大期
ナデシコ	ムシトリナデシコ(ハエトリナデシコ、コマチソウ)	<i>Silene armeria</i>	Dまん延期
アブラナ	セイヨウアブラナ	<i>Brassica napus</i>	Dまん延期
アブラナ	ショカツサイ(ハナダイコン、オオアラセイトウ、ムラサキハナナ)	<i>Orychophragmus violaceus</i>	Dまん延期
アカバナ	メマツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i>	Dまん延期
アカバナ	アレチマツヨイグサ	<i>Oenothera parviflora</i>	Dまん延期
アカバナ	マツヨイグサ	<i>Oenothera stricta</i>	Dまん延期
アカネ	メリケンムグラ	<i>Diodia virginiana</i>	Dまん延期
ヒルガオ	マルバルコウ	<i>Ipomoea coccinea</i>	Dまん延期
ヒルガオ	マメアサガオ(ヒメアサガオ、ヒラミホシアサガ)	<i>Ipomoea lacunosa</i>	Dまん延期
ゴマノハグサ	ビロードモウズイカ(ニワタバコ)	<i>Verbascum thapsus</i>	Dまん延期
ノウゼンカズラ	キササゲ	<i>Catalpa ovata</i>	Dまん延期
キク	ブタクサ	<i>Ambrosia elatior</i>	Dまん延期
キク	オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i>	Dまん延期
キク	ハルシャギク	<i>Coreopsis tinctoria</i>	Dまん延期
キク	ヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron canadensis</i>	Dまん延期
キク	ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>	Dまん延期
ユリ	ハナニラ(セイヨウアマナ)	<i>Ipheion uniflorum</i>	Dまん延期
イネ	ヒゲナガスズメノチャヒキ(オオスズメノチャヒキ、オオキツネガヤ)	<i>Bromus diandrus</i>	Dまん延期
イネ	ムギクサ	<i>Hordeum murinum</i>	Dまん延期
クスノキ	セイロンニッケイ(シナモン)	<i>Cinnamomum verum</i>	EA小笠原・南西諸島
マメ	アメリカネムノキ(タイワンネムノキ)	<i>Samanea saman</i>	EA小笠原・南西諸島
クロウメモドキ	イヌナツメ(インドナツメ)	<i>Ziziphus mauritiana</i>	EA小笠原・南西諸島
ミソハギ	タバコソウ(ベニチョウジ)	<i>Cuphea ignea</i>	EA小笠原・南西諸島
ノボタン	シコンノボタン	<i>Tibouchina urvilleana</i>	EA小笠原・南西諸島
アカバナ	フクシア・ポリビアナ	<i>Fuchsia boliviana</i>	EA小笠原・南西諸島
アカバナ	ツリウキノウ(フクシア・マゲラニカ)	<i>Fuchsia magellanica</i>	EA小笠原・南西諸島
グンネラ	オニブキ	<i>Gunnera manicata</i>	EA小笠原・南西諸島
グンネラ	コウモリガサソウ	<i>Gunnera tinctoria</i>	EA小笠原・南西諸島
キョウチクトウ	メキシコキョウチクトウ(キバナキョウチクトウ)	<i>Thevetia peruviana</i>	EA小笠原・南西諸島
ノウゼンカズラ	ヒメノウゼンカズラ	<i>Tecoma capensis</i>	EA小笠原・南西諸島
キク	ツルヒヨドリ(ツルギク)	<i>Mikania cordata</i>	E小笠原・南西諸島
キバナオモダカ	キバナオモダカ(ヌマオオバコ)	<i>Limnocharis flava</i>	EA小笠原・南西諸島
リュウゼツラン	フルクラエア・フォエティダ	<i>Furcraea foetida</i>	EA小笠原・南西諸島
ショウガ	ショウズク(カルダモン)	<i>Elettaria cardamomum</i>	EA小笠原・南西諸島
ヒユ	ツルノゲイトウ(ホシノゲイトウ)	<i>Alternanthera sessilis</i>	E小笠原・南西諸島
ゴマノハグサ	オトメアゼナ	<i>Bacopa monnieri</i>	E小笠原・南西諸島
イネ	シンクリノイガ	<i>Cenchrus echinatus</i>	E小笠原・南西諸島

表-4 評価を行ったものの掲載種(案)としなかった種【国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

	和名(別名、流通名)	学名	定着状況
モウセンゴケ	ムジナモ	<i>Aldrovanda vesiculosa</i>	X B 定着初期/分布限定
モクセイ	ウスギモクセイ	<i>Osmanthus fragrans var. aurantiacus f. thunbergii</i>	X B 定着初期/分布限定
ミツガシワ	ミツガシワ	<i>Menyanthes trifoliata</i>	X B 定着初期/分布限定
ミツガシワ	アサザ	<i>Nymphoides peltata</i>	X B 定着初期/分布限定
マツムシソウ	タカネマツムシソウ	<i>Scabiosa japonica var. alpina</i>	X B 定着初期/分布限定
サトイモ	ミズバショウ	<i>Lysichiton camtschaticense</i>	X B 定着初期/分布限定
アカザ	マツナ	<i>Suaeda glauca</i>	X B 定着初期/分布限定
カヤツリグサ	コゴメスゲ(コゴメナキリスゲ, シオカゼナキリ)	<i>Carex brunnea</i>	X E 小笠原・南西諸島
ブナ	スダジイ	<i>Castanopsis sieboldii</i>	X E 小笠原・南西諸島
ツバキ	ハマヒサカキ	<i>Eurya emarginata</i>	X E 小笠原・南西諸島
バラ	シャリンバイ	<i>Rhaphiolepis indica var. umbellata</i>	X E 小笠原・南西諸島
カキノキ	ヤエヤマコクタン(リュウキュウコクタン)	<i>Diospyros egbert-walkeri</i>	X E 小笠原・南西諸島
タコノキ	アダン	<i>Pandanus odoratissimus</i>	X E 小笠原・南西諸島
トクサ	スギナ	<i>Equisetum arvense</i>	X X 普通種
ミズワラビ	ホウライシダ	<i>Adiantum capillus-veneris</i>	X X 普通種
マツ	カラマツ	<i>Larix kaempferi</i>	X X 普通種
ヤナギ	オノエヤナギ	<i>Salix udensis</i>	X X 普通種
カバノキ	ヤマハンノキ	<i>Alnus hirsuta var. sibirica</i>	X X 普通種
カバノキ	ヒメヤシャブシ	<i>Alnus pendula</i>	X X 普通種
カバノキ	オオバヤシャブシ	<i>Alnus sieboldiana</i>	X X 普通種
ブナ	マテバシイ	<i>Lithocarpus edulis</i>	X X 普通種
タデ	アイイタドリ	<i>Fallopia × bohemica</i>	X X 普通種
タデ	イタドリ	<i>Fallopia japonica var. japonica</i>	X X 普通種
タデ	オオイタドリ	<i>Fallopia sachalinensis</i>	X X 普通種
メギ	ナンテン	<i>Nandina domestica</i>	X X 普通種
クスノキ	アオモジ	<i>Litsea cubeba</i>	X X 普通種
スイレン	ハス	<i>Nelumbo nucifera</i>	X X 普通種
バラ	オオシマザクラ	<i>Cerasus speciosa</i>	X X 普通種
スイカズラ	ハコネウツギ	<i>Weigela coraeensis</i>	X X 普通種
キク	フキ	<i>Petasites japonicus</i>	X X 普通種
イグサ	クサイ	<i>Juncus tenuis</i>	X X 普通種
ツユクサ	マルバツユクサ	<i>Commelina benghalensis</i>	X X 普通種
イネ	メヒシバ	<i>Digitaria ciliaris</i>	X X 普通種
イネ	チガヤ	<i>Imperata cylindrica var. koenigii</i>	X X 普通種
イネ	ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>	X X 普通種
イネ	スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>	X X 普通種
イネ	ヤダケ	<i>Pseudosasa japonica</i>	X X 普通種
マキ	ナギ	<i>Nageia nagi</i>	X X 普通種
マメ	外国産コマツナギ	<i>Indigofera pseudotinctoria</i>	X X 普通種
マメ	外国産ヤマハギ類	<i>Lespedeza bicolor, L. spp.</i>	X X 普通種
マメ	外国産メドハギ類	<i>Lespedeza cuneata, L. spp.</i>	X X 普通種
ヒルガオ	カロリナアオイゴケ	<i>Dichondra carolinensis</i>	X X 普通種
キク	外国産ヨモギ類(カワラヨモギ)	<i>Artemisia capillaris</i>	X X 普通種
キク	外国産ヨモギ類(ヨモギ)	<i>Artemisia indica var. maximowiczii</i>	X X 普通種
キク	外国産ヨモギ類(ヒメヨモギ)	<i>Artemisia lancea</i>	X X 普通種
キク	外国産ヨモギ類(イワヨモギ)	<i>Artemisia sacrorum</i>	X X 普通種
キク	キクタニギク	<i>Chrysanthemum seticuspe f. boreale</i>	X X 普通種
イネ	ギョウギシバ(バミューダグラス)	<i>Cynodon dactylon</i>	X X 普通種
イネ	オオウシノケグサ(レッドフェスク)	<i>Festuca rubra</i>	X X 普通種
イネ	ナガハグサ(ケンタッキーブルーグラス)	<i>Poa pratensis</i>	X X 普通種

表-5 コラム掲載種のリスト検討・掲載状況 ※1は検討対象となった外来種、※2は検討対象となった国内由来の外来種

日本緑化工学会誌コラム掲載種			我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト掲載および検討内容		
科名	樹種	コラム掲載	リスト No.	カテゴリ	選考状況の情報/抽出根拠など
マツ科	モミ	第34巻4号			
マツ科	アカエノマツ	第38巻3号			
マツ科	エゾマツ	第33巻2号			
マツ科	アカマツ	第33巻3号			
ヒノキ科	サビナビャクシン(臭柏)	第33巻4号			
イヌガヤ科	ハイイヌガヤ	第40巻2号			
クルミ科	サワグルミ	第40巻2号			
ヤナギ科	ベキヤナギ	第34巻3号			
ヤナギ科	コトカグヤナギ	第30巻4号			
カバノキ科	オオバヤシヤブシ	第36巻3号	※2	今回不掲載	「成長が早く競合・日射量低下で林床植生が貧弱化し、森林生態系に影響。」とされ、【国内由来の外来種】として検討対象となった。
カバノキ科	ハンノキ	第38巻3号			
ニレ科	ムクノキ	第37巻4号			
クワ科	コウゾ	第30巻3号			
モクレン科	コブシ	第37巻2号			
クスノキ科	アオモジ	第30巻4号	※2	今回不掲載	「大阪府で分布が拡大」とされ、【国内由来の外来種】の検討対象となった。
クスノキ科	タブノキ	第40巻3号			
カツラ科	カツラ	第34巻4号			
ツバキ科	ヒサカキ	第32巻2号	※2	今回不掲載	「奄美群島で、特に侵略的または優先的に対策すべきとされる種」とされ、【国内由来の外来種】として検討対象となった。
バラ科	ヤマザクラ	第35巻3号			
バラ科	ホザキナナカマド	第32巻3号			
マメ科	ニセアカシア	第32巻3号 第36巻4号	178	産業管理外来種	「河川を中心に分布を拡大しており、北海道他9県で、生態系に影響を及ぼす種類等にあげられている。種子が風や水で拡散されていると考えられている。」等により掲載。
マメ科	イタチハギ	第35巻2号	58	総合対策種 【重点対策種】	「河川を中心に分布を拡大しており、河原の在来植物と競合、駆逐する等の理由で、多くの都道府県で侵略的な外来植物とされている。」
トウダイグサ科	ナンキンハゼ	第32巻4号	126	総合対策種	「関東~琉球で逸出帰化しており、急速に分解する葉からタンニンが生産され、土壌中の窒素やリンも増加する。シカが食べないため今後増加する可能性が高い。」
トウダイグサ科	アカメガシワ	第30巻2号			
ウルシ科	ヌルデ	第30巻2号 第37巻4号			
ツツジ科	コバノミツバツツジ	第30巻4号			
モクセイ科	シオジ	第37巻3号			
モクセイ科	トウネズミモチ	第34巻2号	62	総合対策種 【重点対策種】	海外で侵略的な外来種とされている。日本でも近畿地方では河川敷に樹林が形成されるなど、河川で急速に分布を拡大。里山二次林などに侵入。
ハス科	ハス	第35巻2号	※2	今回不掲載	地域によっては、対策の対象となっているため、「国内由来の外来種」として、リストへの掲載が検討された。
ケシ科	ナガミヒナゲシ	第35巻4号	※1	今回不掲載	「地方公共団体や民間団体により、対策の対象となっている種」として、リストへの掲載が検討された。
ケシ科	タケニゴサ	第40巻2号			
ベンケイソウ科	メキシコマンネングサ	第33巻3号	※1	今回不掲載	多くの河川で帰化しているとされ、リストへの掲載が検討された。
マメ科	ヤブマメ	第31巻3号			
カタバミ科	イモカタバミ	第29巻4号	※1	今回不掲載	「多くの河川で確認されている種と、確認される河川数が急激に増えている種」とされ、掲載の検討対象となった。
ギョリュウ科	タマリスク類	第30巻3号	※1	今回不掲載	タマリクス・ラモシッシマ(Tamarix ramosissima)が「未定着だが、導入されたときに繁殖、在来種との競合のおそれがある」とされ、検討対象となった。
ヒルガオ科	ハマヒルガオ	第39巻3号			
クマツツラ科	イワダレソウ ヒメイワダレソウ	第38巻2号	96	小笠原・南西諸島/ 総合対策種【重点対策種】	リストはヒメイワダレソウが掲載。園芸植物として渡来。本種とともに、在来種のイワダレソウPhyla nodiflora(L. nodiflor)またはその交雑品種(L. nodiflora × L. canescens)が、クラビアの名前で、法面、畦畔、公園等の緑化に利用。
クマツツラ科	ハマゴウ	第38巻2号			
キク科	オトコヨモギ	第31巻4号			
キク科	オオキンケイギク	第34巻3号	31	総合対策種 【緊急的防除種】	特定外来生物にも指定。
ヒルムシロ科	アマモ	第32巻2号			
リュウゼツラン科	アツバキミガヨラン	第31巻4号	51	総合対策種 【重点対策種】	海岸の砂浜に侵入し、大きな株となるため、在来の海浜植物の生育を妨げている。寒さには強いので、中部以南であれば戸外で越冬する。日本には花粉を運ぶ昆虫がいないので、自然環境下では結実しないと言われている。株や地下茎が海流によって流され、分布が拡がると考えられている。
イネ科	トールフェスク	第31巻2号	182	産業管理外来種	掲載種：オニウシノケグサ(トールフェスク、ケンタッキー31フェスク)。
イネ科	アメリカンピーチグラス	第32巻4号	80	重点対策外来種	掲載種：オオハマガヤ(アメリカハマニンニク、アメリカカイガンソウ)として掲載。ピーチグラス(Ammophila arenaria)は【侵入予防外来種】として掲載。
イネ科	キタヨシ	第33巻2号			
イネ科	シナダレスズメガヤ	第33巻4号	81	総合対策種 【重点対策種】	掲載種：シナダレスズメガヤ(ウイーピングラブグラス、セイトカカセクサ)。
イネ科	チガヤ	第35巻3号	※2	今回不掲載	「人為導入による交雑のおそれがある」とされ、【国内由来の外来種】として検討対象となった。
イネ科	シバ(野芝)	第36巻2号			
イネ科	オギ	第38巻4号			
イネ科	チカラシバ	第38巻4号			
サトイモ科	オウゴンカズラ	第34巻2号			
カヤツリグサ科	コウボウムギ	第38巻3号			
カヤツリグサ科	アゼスゲ	第31巻3号			
イネ科	モウソウチク	第31巻2号	185	産業管理外来種	モウソウチクなどの竹類として掲載。
オシダ科	ベニシダ	第30巻4号			
キボウシゴケ科	エゾスナゴケ	第37巻2号			